

練馬区内の身近なみどりの保全と創出

【練馬区の資源(活かしていきたいところ)】

□みどりや農地がたくさん残っている

23区の中では緑が多く残っている

緑が多い

憩いの森の発祥地である

減ったとはいえ、23区で最も豊かな緑の存在(23区最大の農地、公園、いこいの森...など)

練馬の名木・屋敷森

【練馬区の課題(改善していきたいところ)】

□公園が少なく、みどりが減ってきている

練馬区の一人当たり公園面積は23区17番目と低い

せっかくの緑(特に農地)が減ってきている

民間に頼った緑 みどり30は本当に実現出来るのか?

【こんな取り組みを考えていきたい】

公園・屋敷林・住宅地のみどりの保全

緑に接しやすい環境を向上させ、子どもたちの健全な育成につなげる

みどりの保全だけでなく歴史を伝えるという意味からも、農地の保全に取り組む

公園の整備と適切な管理

都市機能の充実(インフラ等)と豊かな自然が共存できるような環境まちづくりを目指す

【こんな視点を大事にしたい】

緑・水・生物の関係を考える

緑と生活の関わりを明らかにする

みどりの具体的内容の検討が必要

民有地の緑被とはどのようなものなのか?

農地の保全や農業の振興

【練馬区の資源(活かしていきたいところ)】

練馬区の農地は都内ナンバーワン

農地が残っており、周回遅れがトップランナーになるポテンシャル

江戸～東京のビタミン供給地。江戸近郊農村としての歴史、現在も都市農業、野菜・行楽・レジャー・スポーツ文化などこころのビタミン

【練馬区の課題(改善していきたいところ)】

農家の現状把握が必要。それが緑の保全につながる

【こんなまちにしたい！】

土と生きるまち
“東京の土”をまもる

東京のビタミン供給地であり続ける。
(野菜のビタミン、こころのビタミン)

【こんな取り組みを考えていきたい】

住宅地をナショナルトラストのような方式で農地に⇒ゆとり空間の創出(住宅地の高層化とのバランス)

川や水の活用(親水、治水)

【こんな取り組みを考えていきたい】

白子川の親水公園化と周辺環境改善と保全(潤いのある安らぎ空間の創出・創造)

都市水害に強いまちづくり

水質・水量の保全(湧水・地下水の涵養)

石神井川・白子川の低地部を緑化地帯としよう

【こんな視点を大事にしたい】

川を昔の姿に戻そう!!

川沿いでの新しい共同住宅・
住み方
⇒新横穴式住居

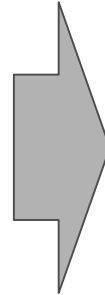
まちの美化・リサイクル

【練馬区の資源(活かしていきたいところ)】

資源の出し方は練馬区民は非常によい
⇒行政の指導と区民のレベルの高さ

【練馬区の課題(改善していきたいところ)】

リサイクル関連施設の設置場所不足
⇒マンション開発業者との土地獲得競争で金額
面で立ち行かず
⇒準工地帯減少により大型トラックが入ること
が難しい



【こんな取り組みを考えていきたい】

公共マナーの推進(ごみ、あいさつ...)

ポイ捨て禁止条例が現在に至っても区民に理
解されていないのか。理念・方法を考えたい

【こんなまちにしたい!】

たばこの吸い殻・ごみの落ちていないきれ
いなまち。歩きたばこのしないまち

交通(自転車、道路、渋滞、交通安全)

【練馬区の課題(改善していきたいところ)】

□自動車が多い/渋滞

車が多い(交通量)

谷原の交通渋滞は環境に悪い、利便性も悪い

道路(整備)

特に生活幹線道路の整備優先すべきでは

□自転車交通

交通の安全確保(歩道・自転車道...)

駐輪場が不足気味

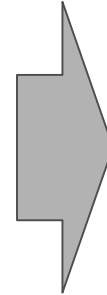
駅前駐輪場をもっと確保して欲しい

光が丘での自転車問題

不法駐輪により歩きづらい

□交通安全

特に光が丘では道路と歩行者の関係改善が必要



【こんな取り組みを考えていきたい】

電線地中化。これができて一人前のまちでは

自転車専用道路の整備(区内の移動の仕方)

環境に優しい自転車と共存したまちづくり

その他(安全・安心、バリアフリー、景観、産業)

【こんな取り組みを考えていきたい】

□地域の活性化(産業)

商店街の再生、利用方法等 若い人が参加して意見が言える場を設けるべき

地域としての自立性を高める

- ・食品の自給率
- ・小売りの自給率等

□景観

景観を考慮したまちづくり

まちの景観の修景、広告物
既成

□安全・安心

防災時に近隣の住民同士が協力しあえるようなまちづくり

子どもたちが安全に安心に暮らせる、遊べるまちづくり

どの年代にでも安心して生活ができる区

□バリアフリー

バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの高齢者・障害者に優しいまちづくり

障害者、健常者がいっしょに活動(ボランティア活動など)できるまち

バリアフリーが完備してあるまち

【練馬区の資源(活かしていきたいところ)】

□文化財

まちかどの文化財・史跡、貴重な植物、鳥など、心のビタミンが実は一杯ある。

まちづくりをすすめていく上での横断的な視点

【少子高齢化の進展への対応】

30年後は65歳以上が50%を超えるかもしれない少子高齢化の進行

団地等の独居老人化

高齢化社会に対応した行政が必要～環境・福祉・安全・交通・経済

【自治・コミュニティの育成】

行政と町会・自治会の協力について、相互の理解によって現在すばらしい活動の展開を見ている。将来さらに連携を深め、区政の発展・町の発展につなげたい

高齢者と子ども達がふれあえるまち

地域でのコミュニケーション

“ふるさと”とよびうる環境まちづくり

ふるさとの価値
ご長寿さんがいて、子どもを育てるのがふるさと。ふるさとは「土」が土台

議論の進め方に対する視点

環境の大きなテーマ「課題」についてできる限り拡散しないよう、幾つかにしぼった方が良いと思う。
Ex)緑(自然の創成・保護)、文化財、同時のボランティア、

30年後、10年後の練馬区の姿を想定する必要がある

マーケットインの視点。行政として何をするか、できるかではなく、区民が何を必要としているか

練馬区を企業としたら企業価値のMAX化

既存のものを活かした練馬区独自のまちづくり